

沖縄芝植栽による景観改善

まず、断らなければならないことがある。植物図鑑等を調べても沖縄芝という植物は載っていない。沖縄県に自生するコウシュンシバを沖縄芝で表記したら、植栽が促されて景観改善に役立つと考えて、この名称を用い始めた（注：学術的には生物名はカタカナ表記をすることになっている）。なお、高麗芝としてホームセンター等で売られている芝のほとんどは県外産のコウシュンシバであるが、植物学上のコウライシバも沖縄島の島々に自生する。

街中でアスファルトの割れ目に芝が生えていることに気づくが、芝以外の植物はほとんど生えておらず、この状態は長い期間安定して続く。アスファルトが劣化して割れ目が広がっても広がった部分は芝の生長で補われる。生えている芝はコウシュンシバである（沖縄県産である場合は沖縄芝）。コウシュンシバは草丈は20cm以下（多くは5cm以下）、踏み付けに強く、高い耐乾性と耐塩性を示し、土壌を選ばずに育つ。これらの特徴は道路沿いの植栽に適している。沖縄芝は在来種であるため自然環境への負荷を心配する必要はない。県内の道路沿いでは雑草（主に外国産のイネ科植物）が繁茂し、景観を損ねており、この対策として沖縄芝の植栽を勧めたい。沖縄芝に置き換わるとその後の刈り取りはほとんど必要なく経費が削減できるばかりか景観が改善される。道路敷設時に沖縄芝を縁石縁などに植えることも実施してもらいたい。

コウシュンシバは注意を払えば遊休地等で見つけることができる。このような場所での雑草管理は主に草払い機による地際での刈り取りである。この方法ではコウシュンシバのほとんどが他の雑草と一緒に刈り取られてしまう。一方、地面から5cm位上での刈り取りを続けると、半年もするとコウシュンシバが他の植物に対して優勢になり、上手くすると一、二年でコウシュンシバの芝地ができる。

沖縄芝の苗づくりは産業的に行われていないので、海岸から少し内側に生えた自生株を増やして用いるしかない。近くにコウシュンシバを植栽した運動場などが無ければ、沖縄芝と考えて良いだろう。なお、最も海に近い崖上などには葉の幅が狭いコウライシバが多く、これも活用できるが、生長が遅い様である。

沖縄芝は公園、学校の運動場、空港等の植栽にも適している。拡張が進む那覇空港では、チガヤ、ハイキビが植栽候補種とされている様であるが、管理費が軽減できる沖縄芝を勧めたい。チガヤ、ハイキビは国内外の空港で外来植物として問題を起こす可能性がある。